

泉大津市文化財調査報告32

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報18

2000・3

泉大津市教育委員会

目 次

第1章 泉大津市と埋蔵文化財調査の状況	1
1. 泉大津市の位置と環境	1
2. 埋蔵文化財調査の現状	3
第2章 発掘調査成果	5
1. 池上曾根遺跡	5
2. 豊中遺跡、穴師遺跡	8
3. 板原遺跡、穴田遺跡	11
4. 池浦遺跡	13
5. 虫取遺跡	17
発掘調査抄録	18

挿 表

表1 発掘調査一覧表	4
------------	---

挿 図

図1 泉大津市の位置	1
図2 豊中遺跡遠望	1
図3 遺跡分布図	2
図4 遺跡別工事内容内訳	3
図5 池上曾根遺跡 調査区位置図	5
図6 9905地点南壁断面図	6
図7 9905地点トレンチ写真	6
図8 9910地点北壁断面柱状模式図	7
図9 9910地点トレンチ掘削状況写真	7
図10 豊中遺跡 穴師遺跡 調査区位置図	8
図11 9902地点南壁断面図	9
図12 9902地点トレンチ写真	9

図13 9904地点北壁断面図	10
図14 9904地点北壁断面写真	10
図15 9904地点トレンチ写真	10
図16 9906地点トレンチ写真	10
図17 9906地点北壁断面図	10
図18 9906地点北壁断面写真	10
図19 板原遺跡 穴田遺跡 調査区位置図	11
図20 9903地点北壁断面柱状模式図	12
図21 9903地点トレンチ写真	12
図22 9909地点北壁断面図	12
図23 9909地点トレンチ写真	12
図24 池浦遺跡 調査区位置図	13
図25 9907地点トレンチ1(左)・トレンチ2(右)写真	14
図26 9907地点南壁断面図	14
図27 9908地点トレンチ1(左)・トレンチ2(右)写真	15
図28 9908地点北壁断面図	15
図29 0001地点トレンチ写真	16
図30 0001地点南壁断面図	16
図31 虫取遺跡 調査区位置図	17
図32 9911地点南壁断面図	17
図33 9911地点トレンチ写真	17

第1章 泉大津市と埋蔵文化財調査の状況

1. 泉大津市の位置と環境

泉大津市は大阪府南部のいわゆる泉州地域に属する。泉州地域東部には、大阪湾に沿って東西に和泉山脈が連なる。その山脈を源とし、幾多の河川が北に走行し、大阪湾に注ぐ。これらの河川はそれぞれ開析谷、河岸段丘を形成し、その両側には丘陵地形が南北方向に発達している。その丘陵より北側は平坦で狭小な沖積地が形成されているが、泉大津市はこの沖積地上に立地しており、市域の標高は20m未満である。

泉大津市は面積12.30 km²、人口76,387人である（平成12年2月1日現在）。昭和40年代頃から開発が進み、現在は市域全域が市街地化されている。市域は、臨海部の工業地域、南海本線から阪和線にかけての住居地域と商工業地域が混在する地域、国道26号線周辺の商業地域に大きく分けることができる。住居地域には、助松の紀州街道沿いと穴師神社周辺にそれぞれ風致地区を設けている。

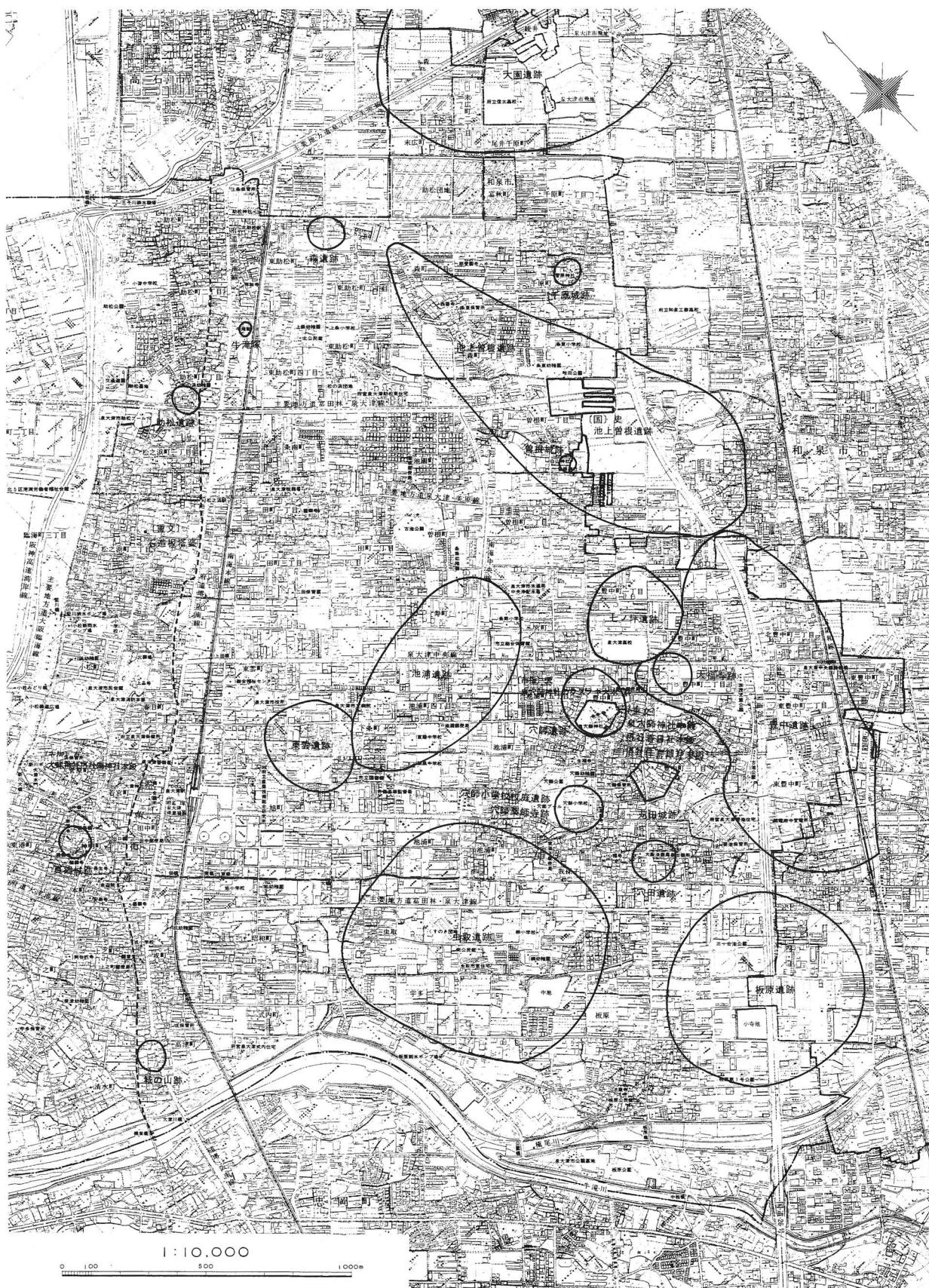
近年の開発における市域の環境は、臨海部及び南海本線沿線で大きな変化が認められる。臨海部では、新たな住居地域としてのマンション建設が進み、松之浜駅周辺では、鉄道高架事業により駅ビルの建設が行われている。これ以外の開発は、平成5年頃のバブル景気を境に、大規模開発は下火になっているが、繊維工場解体後の分譲住宅建設、木造個人住宅の鉄筋造への立替えなど、景観への影響は大きいものがあろう。



第1図 泉大津市の位置



第2図 豊中遺跡遠望



第3図 遺跡分布図

2. 埋蔵文化財調査の現状

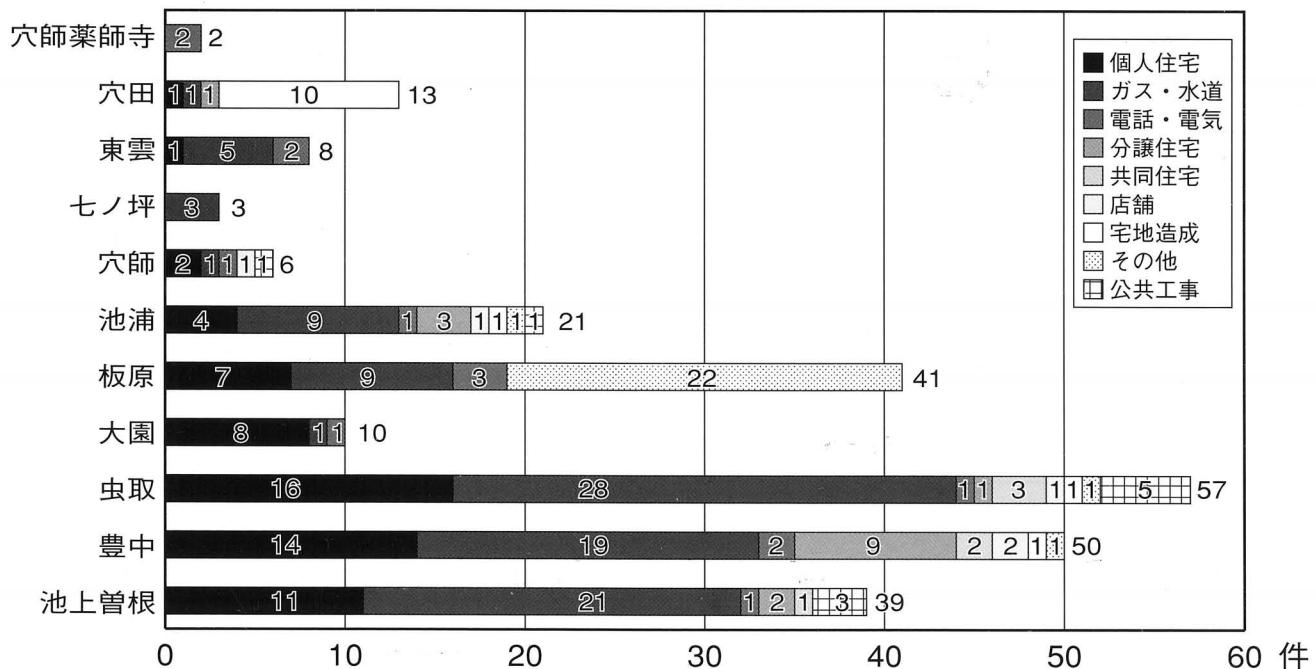
本概報は、平成11年2、3月及び平成11年4月～12年1月までに届け出があったものを対象とする。対象期間内の埋蔵文化財届出件数は250件である。近年の届出件数は、平成9年度261件、平成10年度234件とわずかの増減はあるが、概ね一定している。

第4図は、遺跡別工事件数の内訳である。遺跡別に届出件数を見ると虫取遺跡、豊中遺跡、板原遺跡の順で多く、穴師薬師寺跡、七ノ坪遺跡、穴師遺跡の順で少ない。

総届出件数に占める工事内容は、ガス・水道・電話・電気を含む個人住宅関連工事が70%と最も多い。続いて、分譲住宅が15%、以下、共同住宅、店舗、宅地造成の順でそれぞれ数パーセントづつを占める。いずれの工事種別にも含まれない「その他」工事は、医療関係機関の新築、高層住宅のエレベーター棟の増設などである。公共工事は、上・下水道、史跡整備に伴う学習管理施設の建設がその内訳である。

近年の工事種別内訳の傾向として、分譲住宅の比率が多くなることがあげられる。特に板原遺跡では、約2/1を占める。数パーセントを占める宅地造成も分譲住宅建設に先立って行われるのがほとんどである。

本概報で報告する調査は、池上曾根遺跡2件、豊中遺跡2件、穴師遺跡1件、板原遺跡1件、穴田遺跡1件、池浦遺跡3件、虫取遺跡1件の合計11件である。いずれも建物基礎掘削深度が遺構面を損壊すると思われるため、着工前の確認調査を行ったものである。但し、本発掘調査に至った件はない。



第4図 遺跡別工事内容内訳

表1 発掘調査一覧表

○池上曾根遺跡

調査地点	所 在 地	用 途	申請面積
9905	森町2丁目227-15	鉄筋造2階建自治会館	178.16m ²
9910	千原町2丁目104-1, -2	鉄筋コンクリート造一部鉄骨造2階建学習管理施設	13,030.77m ²

○豊中遺跡

調査地点	所 在 地	用 途	申請面積
9902	北豊中町3丁目976-17	木造3階建個人住宅	145.10m ²
9904	豊中町2丁目268-1	木造2階建個人住宅	480.51m ²

○穴師遺跡

調査地点	所 在 地	用 途	申請面積
9906	豊中町1丁目 664-1, -4, -5	鉄筋コンクリート2階建て共同住宅	756.70m ²

○板原遺跡

調査地点	所 在 地	用 途	申請面積
9903	我孫子 109-1, -3, 110-3	宅地造成に伴う下水管敷設	2,542.07m ²

○穴田遺跡

調査地点	所 在 地	用 途	申請面積
9909	我孫子39-1	鉄筋造3階建個人住宅	169.15m ²

○池浦遺跡

調査地点	所 在 地	用 途	申請面積
9907	寿町67-1, -3, -4	鉄骨造3階建倉庫	1582.66m ²
9908	下条町160-1他9筆	鉄筋コンクリート造4階建医療施設	2,995.06m ²
0001	下条町254-9	鉄骨造3階建個人住宅	61.10m ²

○虫取遺跡

調査地点	所 在 地	用 途	申請面積
9911	虫取1丁目61-1の一部	鉄骨3階建共同住宅	1,779.42m ²

第2章 発掘調査成果

1. 池上曾根遺跡

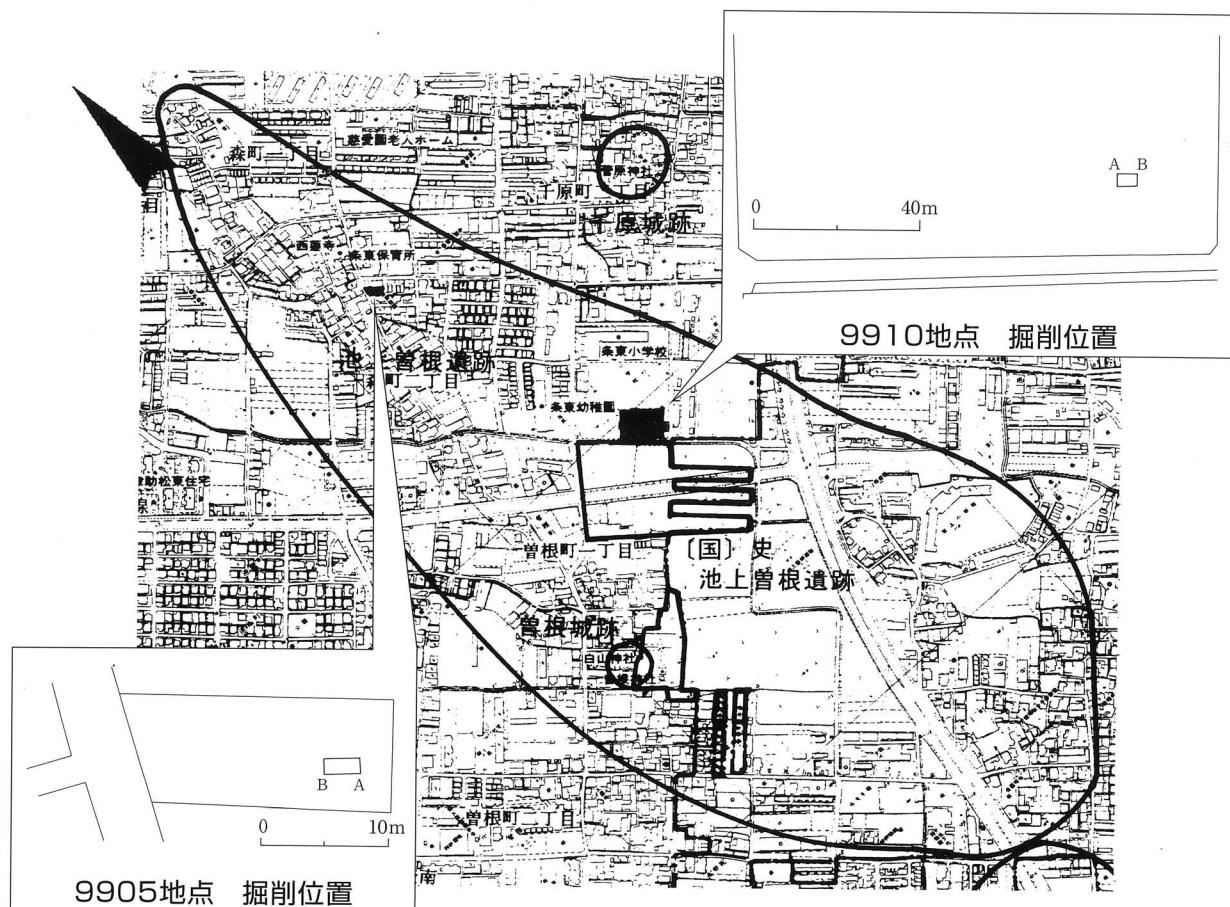


図 5 池上曾根遺跡 調査区位置図

池上曾根遺跡は、本市曾根町と和泉市池上町に広がり、昭和51年に約11.5ヘクタールが史跡に指定された。本市の史跡範囲は、曾根神社及び、府道松之浜曾根線沿線で約2.3ヘクタールで、史跡の大部分は和泉市域である。指定地を含む遺跡範囲は約75ヘクタールで南北に広がりをもつ。指定地外の遺跡範囲は曾根神社以西及び森町、千原町の一部である。指定地外の地域は、古くからの村落と昭和40年代の開発部分が混在しているが、小区画の開発が多いため大規模な調査は行われていない。そのため、史跡指定地中心部の構造に比べ、縁辺部は不明な点が多い。

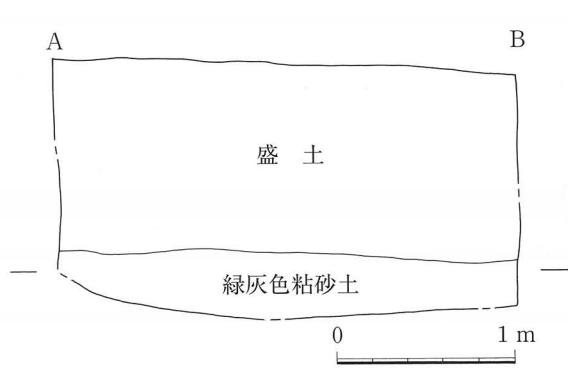
今年度は遺跡内で2件の調査を実施したが、確認調査に終わり、面的な調査には至らなかった。

9905地点

当該地は遺跡の北部に位置し府道松之浜曾根線より300m北に位置する。周辺は、昭和40年代に開発された住宅地とそれ以前の古い村落が混在する地域である。

当該地で鉄筋造2階建て自治会館の建設が予定されたため、着工に先立つて調査を実施した。

まず、敷地の南端に、幅1.2m、長さ3mの規模のトレンチを設定し、重機で深さ1.5mまで掘削を行った。トレンチの層序は1mまで盛土で以下、緑灰色粘砂土が堆積する。遺構、遺物は認められない。



第6図 9905地点南壁断面図



第7図 9905地点トレンチ写真

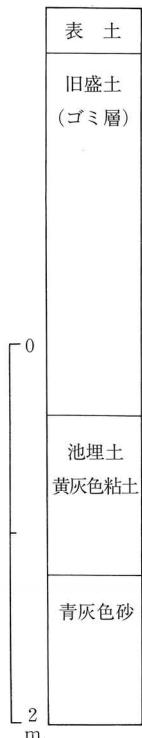
い。当該地は調査時点では、公園となっていたが、それ以前は「前池」と称するため池で、トレンチの土層はいずれも池の埋土であろう。写真撮影、図面作成を行い、調査を終了した。

9910地点

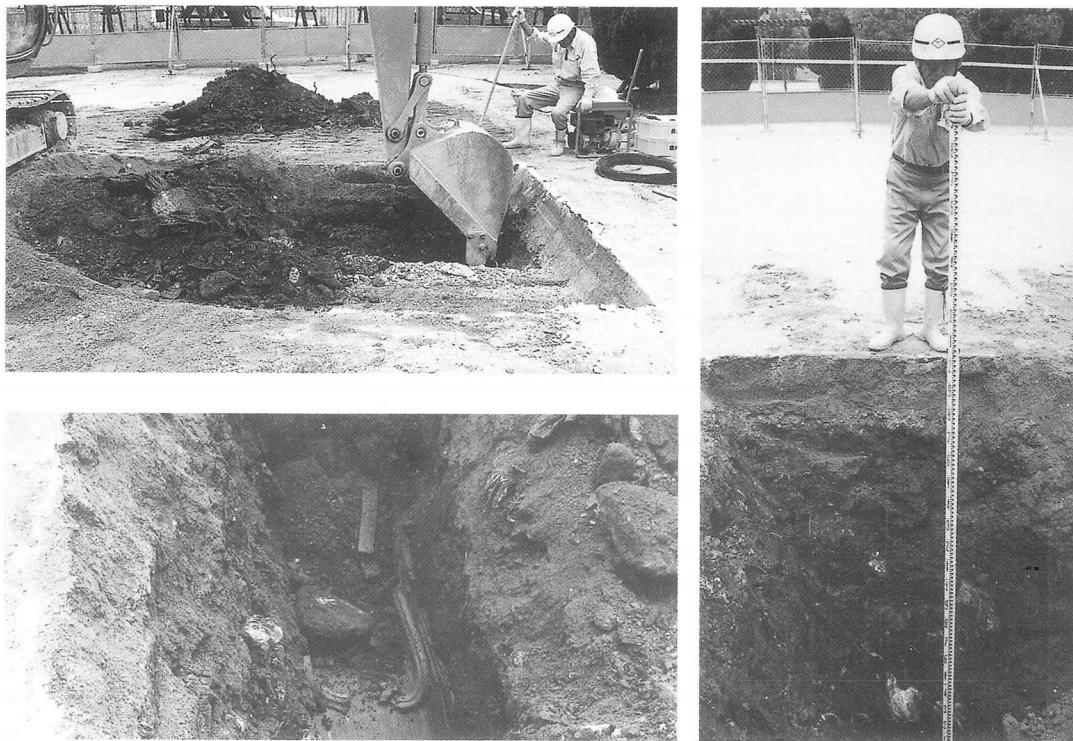
当該地は都市公園で、名称は畦田公園である。遺跡の中心部よりやや東に位置し、府道松之浜曾根線の500m東に位置する。史跡指定地とは市道で隣接している。史跡池上曾根遺跡の整備に伴い史跡指定地外で学習管理施設を建設することとなり、建設予定地は、当該公園となった。当該調査は、この学習管理施設建設に先立つ確認調査である。

学習管理施設は、鉄筋コンクリート造一部鉄骨造2階建で、基礎部分に杭の打設が行われる。また、一部地下構造をもつ室があり、建物基礎が約3.5mまで掘削される。調査は地下構造をもつ部分について行った。

敷地の南隅に幅3.5m、長さ5mの規模のトレンチを設定し、重機で4mまで掘削を行い、断面観察を行った。層序は表土、旧盛土まで約2.1mを測る。当該地は公園以前は「畦田池」と称するため池であった。旧盛土はゴミ層であるが、この層は池の埋め立て時の層であろう。以下黄灰色粘土、青灰色砂の堆積が見られるが、これらは池の埋土である。遺物及び遺構は認められない。湧水は青灰色砂からわずかにあった。



第8図 9910地点北壁断面柱状模式図



第9図 9910地点トレンチ掘削状況写真

当該地は、史跡指定地に近距離で接しているため、当初遺構、遺物の存在も予想されたが、現況地盤から4m地点では旧ため池の池底に至らない。

2. 豊中遺跡、穴師遺跡

豊中遺跡は国道26号線を長軸に、市の東端に広がる遺跡で、面積は約84ヘクタールである。現在までに、本市で最も継続して調査が行われている遺跡で、その成果から、国道付近は古墳時代の、泉大津中央線付近は平安～中世にかけての集落が見つかっている。また、中世の遺構として、南北方向に流れる水脈上に井戸が数多く見られるのも当遺跡の特徴である。

今年度は遺跡内で2件の調査を実施した。調査はいずれも個人住宅の建て替えによるものであるが、確認調査に止まった。

穴師遺跡は豊中遺跡の西側に位置し、その大半は泉穴師神社の境内である。遺跡の半径は約200mと、その範囲は狭い。明確な遺構は認められないが、古墳時代及び中世の遺物の散布が見られる。近年、耕作地から宅地への転用により確認調査対象となることがあるが、遺跡の性格解明には至っていない。今年度は共同住宅の建設に先立って確認調査を実施した。

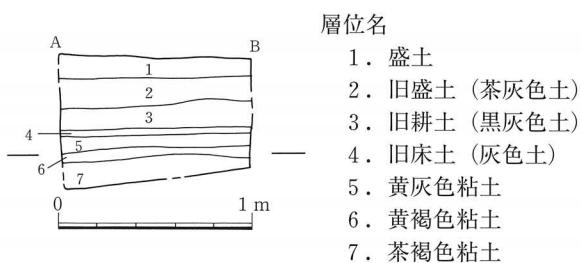


第10図 豊中遺跡 穴師遺跡 調査区位置図

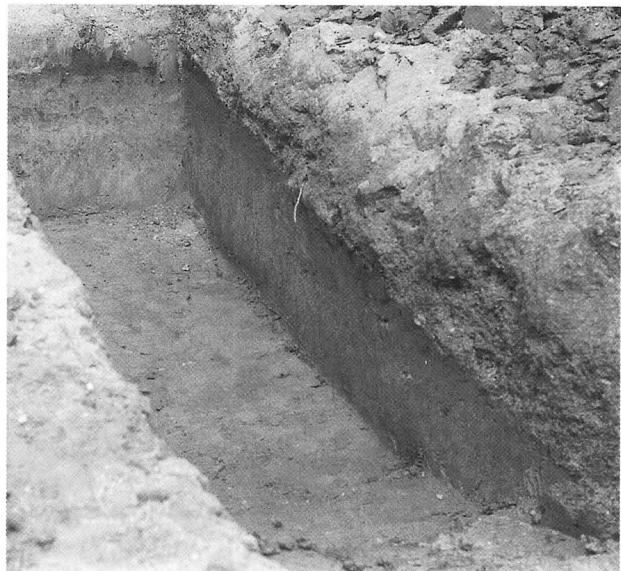
9902地点

当該地は、遺跡の中央よりやや東北に位置する住宅街の中に位置する。国道26号線の阪和豊中交差点から直線距離にして約150mの地点である。今回は、木造3階建個人住宅の建築が予定されたため、工事に先立って確認調査を実施した。

まず、敷地の西端に幅1m、長さ1.5mの規模のトレンチを設定した。これは、当該地点に左記の規模で浄化槽が設置されるためである。この地点を深さ0.7mまで重機で掘削を行った。層序は、上層から、現地表面である盛土、旧盛土（茶灰色土）、旧耕土（黒灰色土）、旧床土（灰色土）、黄灰色粘土、黄褐色粘土、茶褐色粘土の順で、各層の幅も5～10cmと一定し、ほぼ水平に堆積が認められる。遺構及び遺物は確認できなかった。建物基礎は約50cmと浅く破壊されるのは浄化槽部分のみであるので、写真撮影及び図面作成を行い調査を終了した。



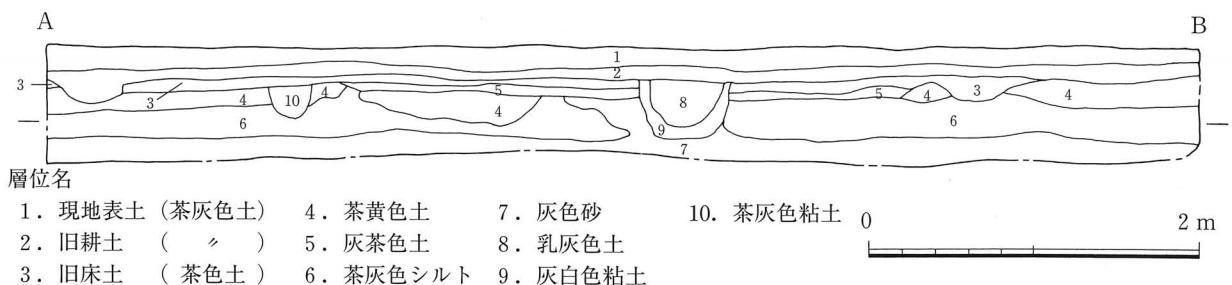
第11図 9902地点南壁断面図



第12図 9902地点トレンチ写真

9904地点

当該地は遺跡中央部より南西に位置し、約100m東側で国道26号線と接する。この付近は明治期からのいわゆる豊中村内に位置するが、近年の宅地開発の影響を受け、古くからの住宅と新興住宅が混在している地点である。当該地はその小字名を釈迦寺前と言い、この近辺は寺に関連する字名が多く見られる地域である。当該地で木造個人住宅の建替えが予定されたため、工事に先立って確認調査を



第13図 9904地点北壁断面図

実施した。

まず、敷地のほぼ中央に幅1m、長さ9mの規模のトレンチを設定し、重機で深さ70cmまで掘削を行った。上層から、現地表土、旧耕土、旧床土の下層に茶黄色土及び灰茶色土が見られる。この2層は、中世の耕作土であろう。この下層に茶灰色シルト、灰白色粘土が認められる。基本的な層序は以上であるが、旧耕土あるいは旧床土の下層に、乳灰色土、灰白色粘土または、茶灰色粘土がピット状に堆積している。両者とも遺物は含まれておらず、性格は不明である。他に遺構は認められない。写真撮影及び図面作成を行い調査を終了した。



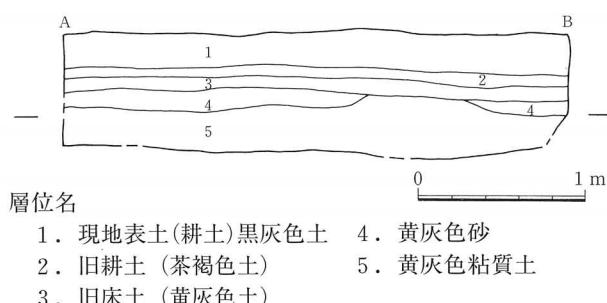
第14図 9904地点北壁断面写真

第15図 9904地点トレンチ写真

9906地点

穴師遺跡の東端に位置する。当該敷地は東北端で市道中央線と接し、敷地の南端のみ穴師遺跡内に含まれる。今回は、鉄筋コンクリート2階建て共同住宅建設が予定されたため、工事に先立って確認調査を実施した。

敷地の南端に幅2.5m、長さ3mの規模のトレンチを設定し、80cmまで重機で掘削を行った。層序は、現地表土の黒灰色土、旧耕土、旧床土、黄灰色砂、黄灰色粘質土の順で堆積が認められる。遺構は認められない。遺物は、黄灰色粘質土から擂鉢の細片が検出されたが、図示し得ない。写真撮影及び図面作成を行い調査を終了した。



第17図 9906地点北壁断面図



第16図 9906地点トレンチ写真



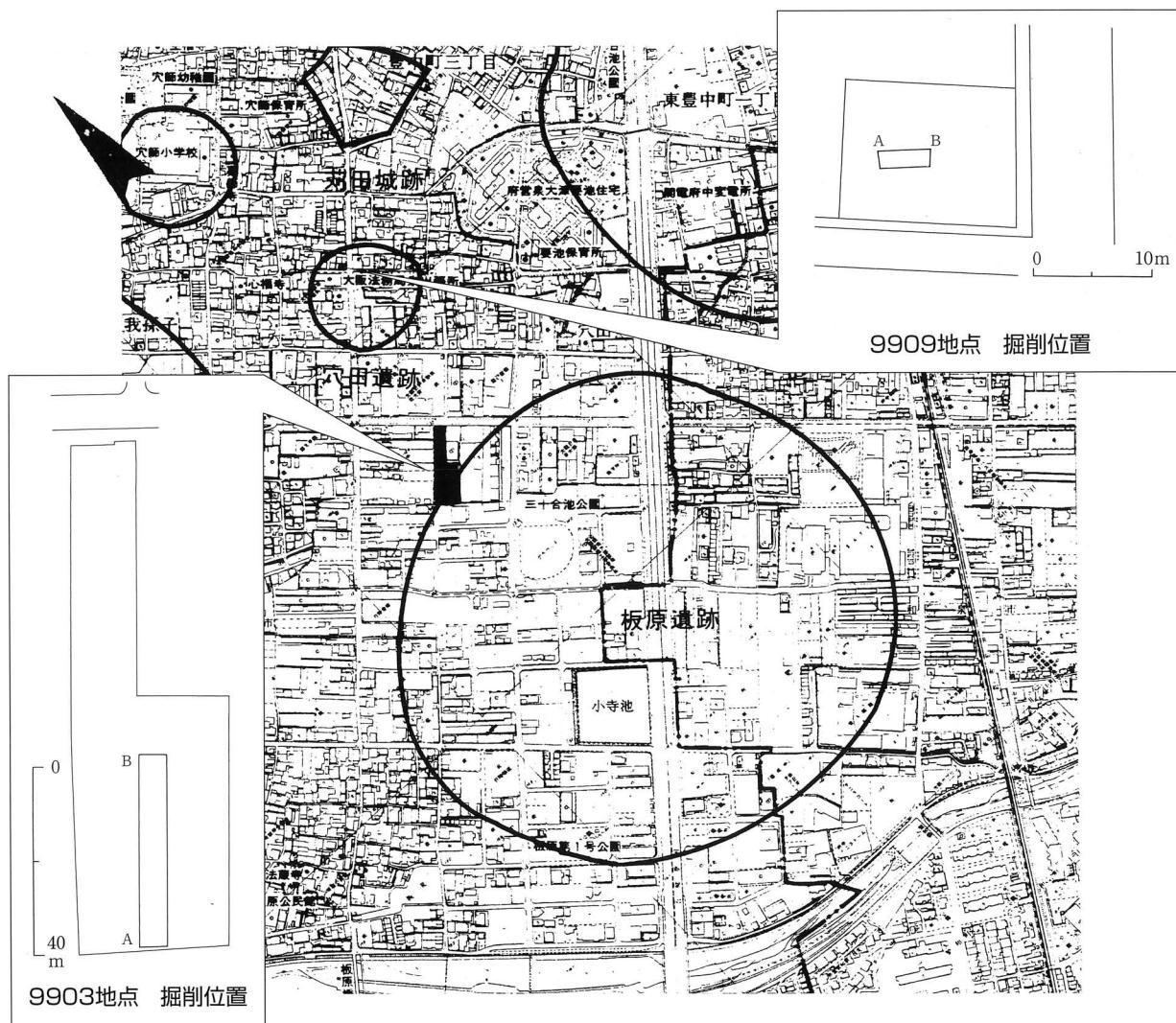
第18図 9906地点北壁断面写真

3. 板原遺跡、穴田遺跡

板原遺跡は、市の最も東南に位置し、遺跡の面積は約60ヘクタールである。遺跡中央を国道26号線が貫き、その西側は市内でも多く耕作地を残すが、昭和50年代中ごろに行われた土地区画整理後は、宅地開発が徐々に進んでいる地域である。また、遺跡の東側は、多くの部分が和泉市域である。

今回は、遺跡北端で宅地造成に伴う下水管敷設が行われるため、調査を実施したが、確認調査に止まった。

穴田遺跡は、板原遺跡の北、約150mに位置し遺跡の面積は約2.3ヘクタールと規模は小さい。板原遺跡と豊中遺跡からともにほぼ等距離の位置にあるが、中世の羽釜を転用した井戸を1基検出したのみで、その性格などは不明な点が多い。遺物包含層の深さも明確ではない。今回は遺跡の北端で、鉄筋造3階建て個人住宅が建てられるため工事に先立ち調査を行った。



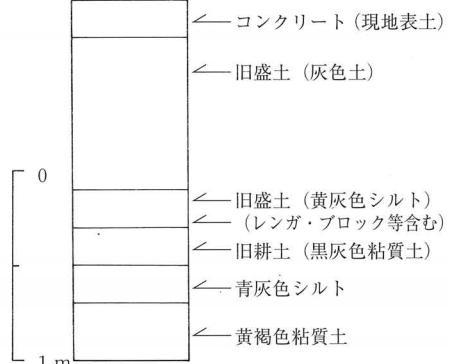
第19図 板原遺跡 穴田遺跡 調査区位置図

9903地点

当該地は板原遺跡の北端に位置し、敷地北側で市道粉河線と接する。当該敷地南端のみが包蔵地内に含まれる。当該地で宅地造成に伴う下水管敷設が行われるため工事に先立ち調査確認を実施した。

敷地南端に幅5m、長さ40mの規模のトレンチを設定し、重機で約2mまで掘削を行った。トレンチからの湧水があったため、人力による掘削は行わず、断面観察のみとした。

断面の柱状模式図は第20図による。上層から、現地表土のコンクリート、旧盛土の灰色土、同じく旧盛土の黄灰色シルト、旧耕作土の黒灰色粘質土、青灰色シルト、黄褐色粘質雄土に至る。遺構及び遺物は認められない。写真撮影及び図面作成を行い調査を終了した。



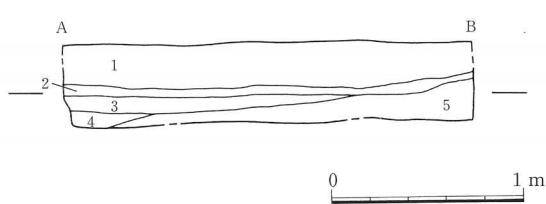
第20図 9903地点
北壁断面柱状模式図



第21図 9903地点トレンチ写真

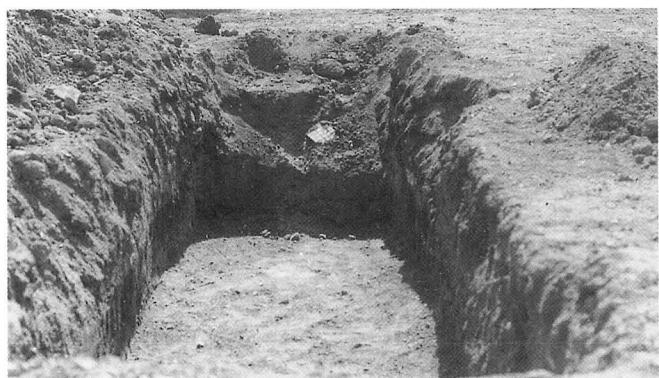
9909地点

当該地は、穴田遺跡の北端に位置し、大阪法務局泉出張所に隣接する。昭和31年の近隣調査で、中世の羽釜転用の井戸を検出している。今回は、鉄筋造3階建て個人住宅の建設が予定されたため、工事に先立ち確認調査を実施した。敷地のほぼ中央に、幅1.6m、長さ4mの規模のトレンチを設定し、重機で深さ約40cmまで掘削を行った。トレンチの層序は、現地表土、旧耕作土、灰茶色砂礫、とほぼ水平に堆積するが、東から、灰色細砂が3層下の茶灰色砂礫を大きく切り込んでいる。遺構は認められない。2層中には土師器細片がわずかに見られるが、耕作時に下層から堀り出されたのであろう。明確な包含層は認められない。写真撮影及び図面作成を行い調査を終了した。



層位名
1. 現地表土
2. 旧耕作土(灰茶色土)
3. 灰茶色砂礫
4. 茶灰色砂礫
5. 灰色細砂

第22図 9909地点北壁断面図



第23図 9909地点トレンチ写真

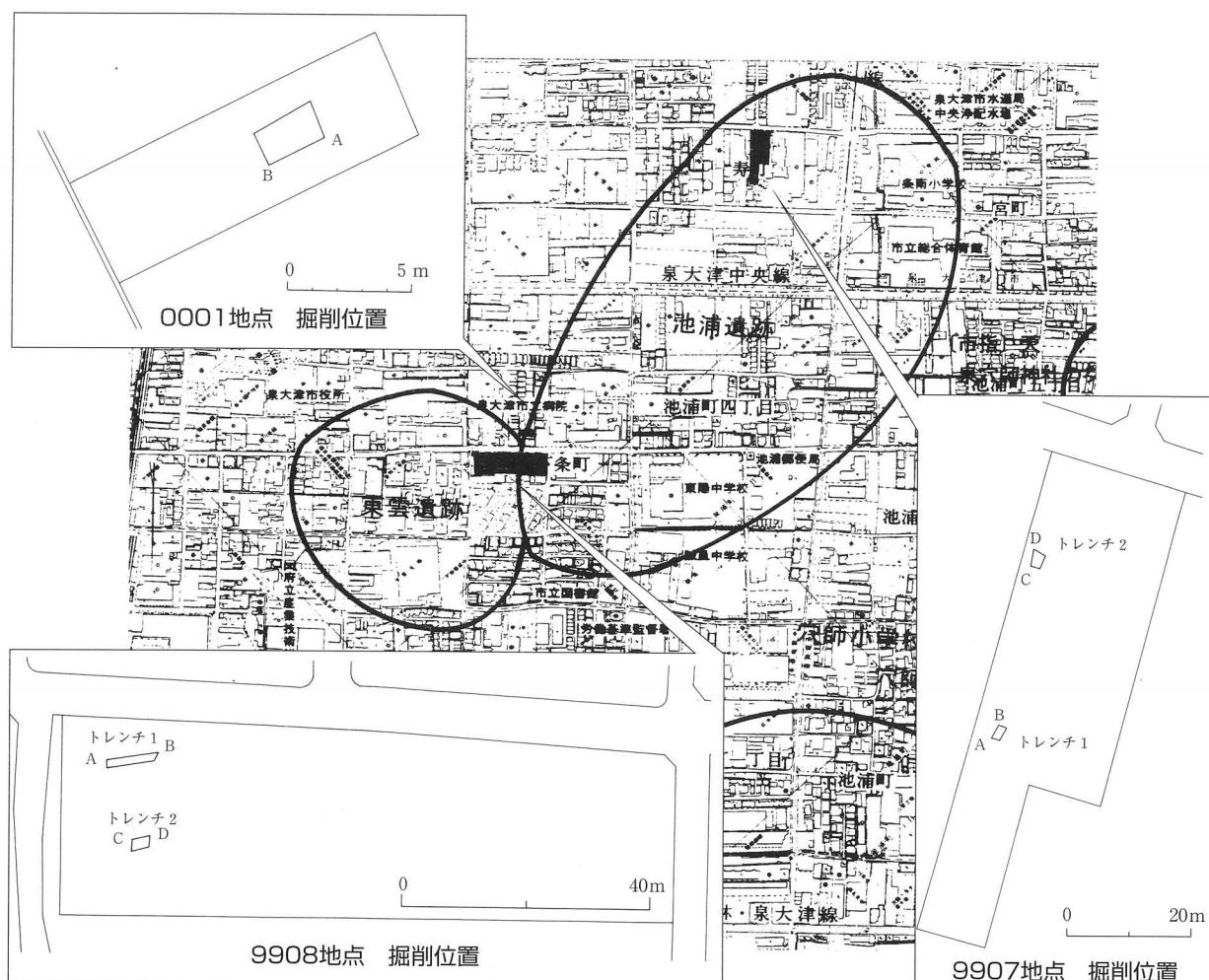
4. 池浦遺跡

池浦遺跡は、弥生時代前期中段階に始まる泉州地方で最も古い集落として知られている。市のほぼ中央部に位置し、市立病院付近がその中心と推測される。当遺跡内の調査は、昭和47年に開始され、以降、昭和50年代から60年代初頭にかけて比較的大きな規模で行われてきた。しかし、遺跡中心部はミニ開発が主で大規模開発があまり見られないことや、開発の中心が遺跡の北東側に移ったことなどで、近年の調査は確認調査にとどまっている。平成9年度の調査で、朝鮮系無文土器の可能性をもつ破片を検出している。池上曾根遺跡との関わりを考える上で重要な意味をもつ遺跡であると考えられる。今年度は3件の調査を実施した。内、1件は当遺跡と隣接する東雲遺跡に広がっているが、池浦遺跡として報告を行う。

9907地点

遺跡の北端に位置する。中央線から約1.5kmの地点で、耕作地と住居が混在する地域である。鉄骨造3階建て倉庫建設が予定されたため、工事に先立ち調査を実施した。

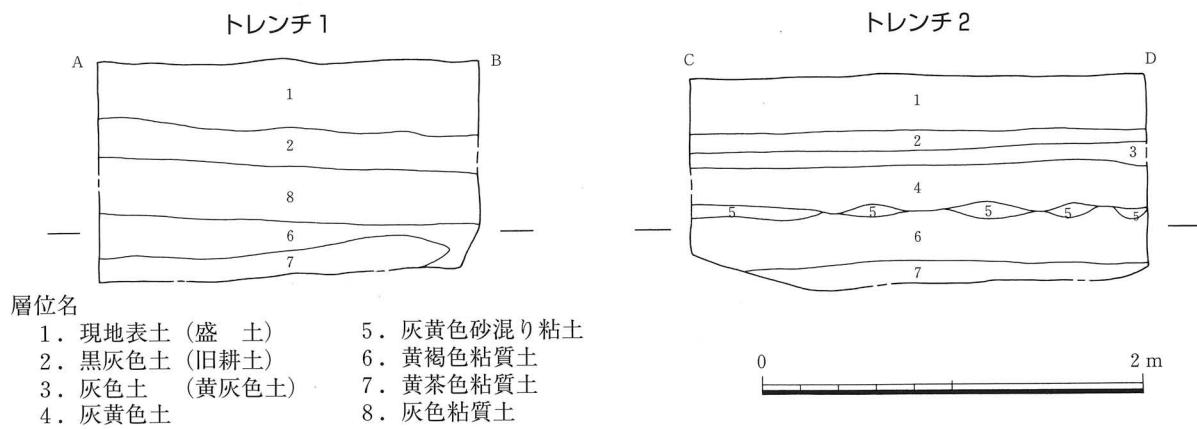
敷地の北端に幅1.5m、長さ2.5mの規模のトレンチと、更に北側に幅1.5m、長さ3mの規模のトレ



第24図 池浦遺跡 調査区位置図



第25図 9907地点トレンチ1(左)・トレンチ2(右)写真



第26図 9907地点南壁断面図

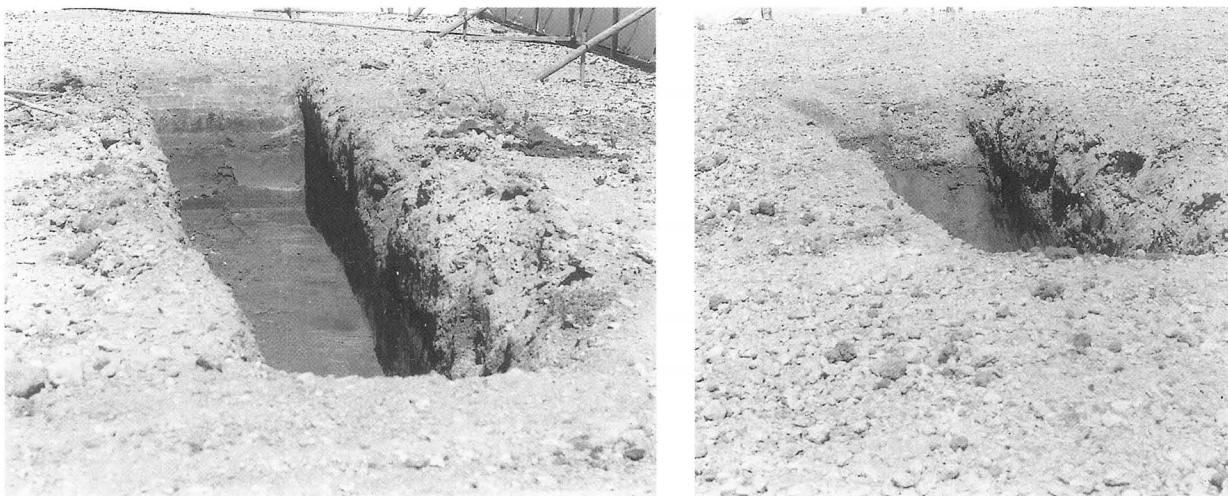
ンチをそれぞれ設定し、前者をトレンチ1、トレンチ2とする。両トレンチとも重機で深さ1.2mまで掘削を行う。

トレンチ1の層序は盛土、旧耕作土、灰色粘質土、黄茶色粘質土に至る。トレンチ2は、上2層まではトレンチ1と同様である。旧床土、灰黄色土、灰黄色砂混じり粘土、黄褐色粘質土、黄茶色粘質土に至る。いずれもほぼ水平の堆積を示す。遺構及び遺物は認められない。写真撮影、図面作成を行い調査を終了した。

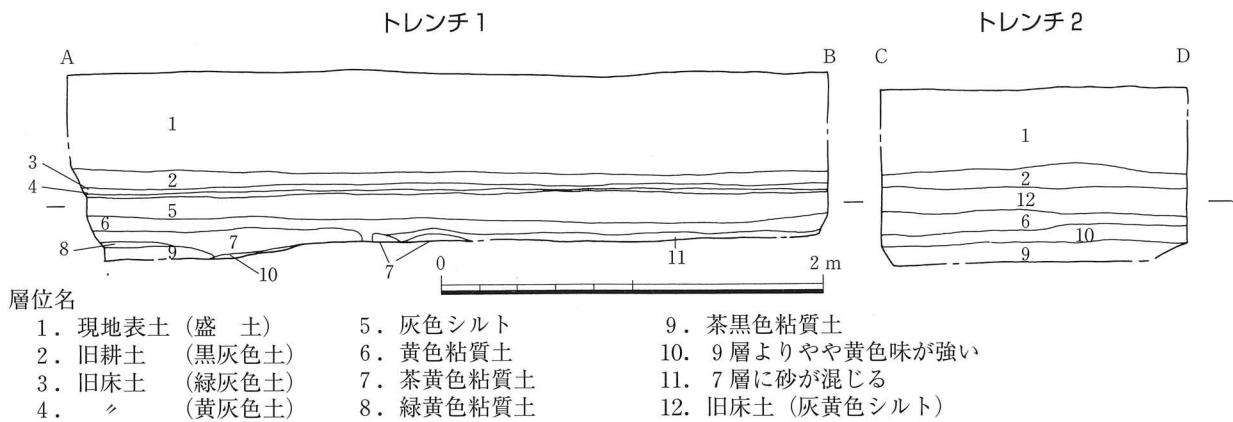
9908地点

当該地は敷地東側が池浦遺跡、西側はそれに隣接する東雲遺跡に属する。東雲遺跡は、平安時代から鎌倉時代初期に至る掘立柱建物で構成される集落として知られているが、その調査地点は当該地より約500m西側である。

当該地は、「小津の泊」から穴師神社へ通じるいわゆる「勅使道」に面し、工場、耕作地、住居が混在する地域である。当該地は、区画の小さい建物が多い中、3,000m²あまりの敷地面積を有する古くからの毛織工場であったが、工場を解体し、鉄筋コンクリート造4階建医療施設の建設が予定されたため、工事に先立ち調査を実施した。



第27図 9908地点トレンチ1(左)・トレンチ2(右)写真



第28図 9908地点北壁断面図

敷地西端に幅1.4m、長さ9mの規模のトレンチを設定。また、そのトレンチの南側に幅2m、長さ3mの規模のトレンチを設定。前者をトレンチ1、後者をトレンチ2とする。それぞれ90cmの深さまで掘削を行った。

トレンチ1の層序は、現地表土、旧耕土、旧床土が2層、灰色シルト、黄色粘質土、まではほぼ水平な堆積を示す。以下、茶黄色粘砂、緑黄色粘質土、茶黒色粘質土が部分的に認められ、10層と11層に至る。茶黒色粘質土は粘性が非常に強い。10層は、9層よりやや黄色味が強く、11層は7層に砂が混じる土層を呈する。

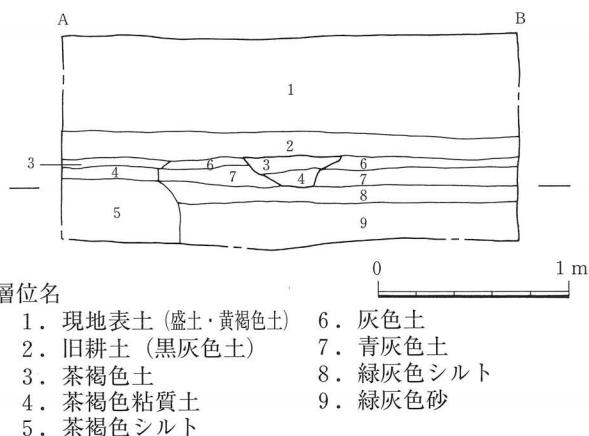
トレンチ2の層序は、上層3層は現地表土、旧耕土、旧床土である。以下、トレンチ1の6層、10層、9層とほぼ水平な堆積を示す。

遺構及び遺物は認められず、写真撮影、図面作成を行い調査を終了した。

0001地点



第29図 0001地点トレンチ写真

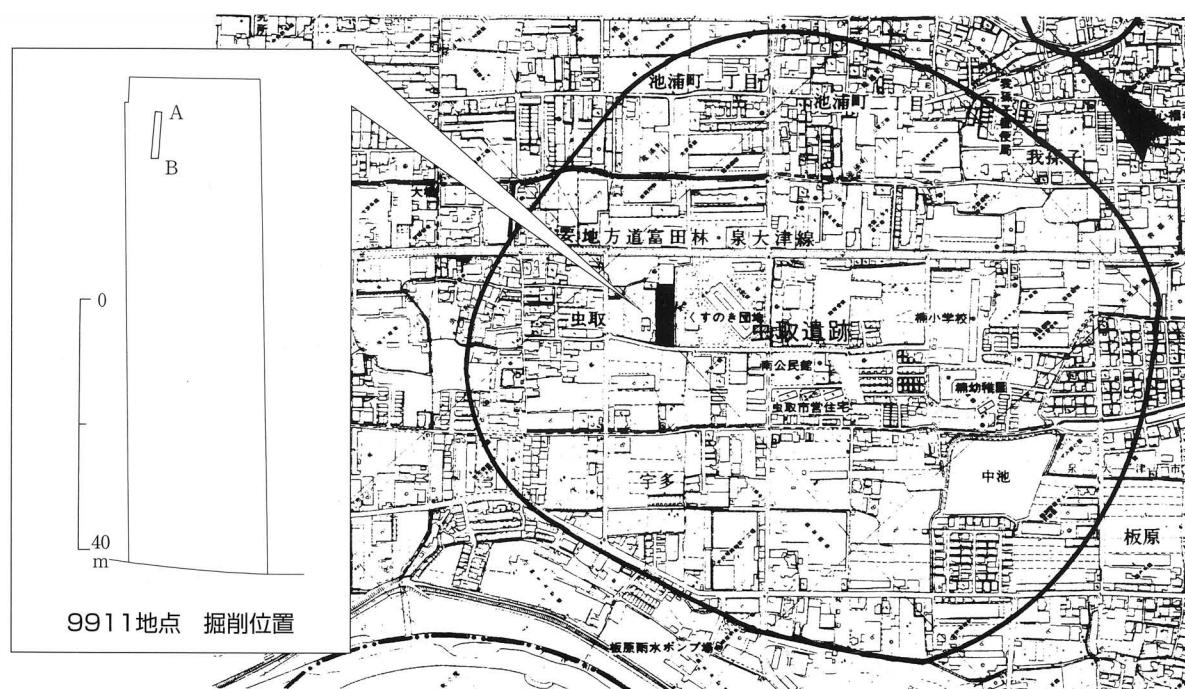


第30図 0001地点南壁断面図

9908地点とは市道を挟んで北側の住宅密集地内に位置する。当該住宅地は、昭和40年代に建てられた住宅が多く、ここ1、2年の間、立て替えが目立ってきた地域である。住宅地内の地表面は、市道より60cm程度高く、宅地造成に伴い盛土がされたと思われるが、宅地造成時に未調査であることと、3階建住宅の増加から、今後は調査が増えると想定できる地域である。今回は鉄筋造3階建個人住宅が予定されたため、工事に先立って調査を実施した。

敷地中央に幅1.5m、長さ2.5mの規模のトレンチを設定し、重機で約1mまで掘削を行う。トレンチの層序は、現地表土、旧耕土以下、東側50cmでは、茶褐色土、茶褐色粘質土、茶褐色シルト、に至る。これ以外の部分では、旧耕土以下、灰色土、青灰色土、緑灰色シルト、緑灰色砂の堆積を示す。灰色土は中世の耕土と思われ、わずかに瓦器、土師器の細片を含むが図示し得ない。トレンチ中央でこの灰色土を切って、ピット状の堆積が認められる。堆積は2層みられ、上層は茶褐色土、下層は茶褐色粘質土である。下層からは、わずかに炭が認められる。これ以外に顕著な遺構、遺物は認められない。写真撮影、図面作成を行い調査を終了した。

5. 虫取遺跡



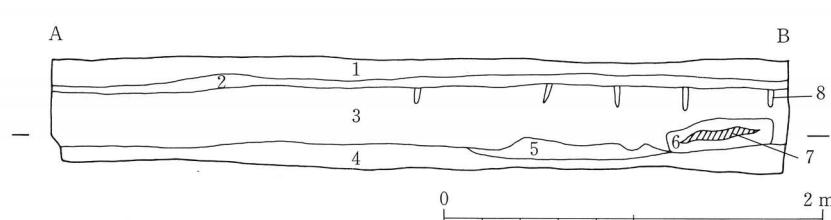
第31図 虫取遺跡 調査区位置図

9911地点

大園遺跡、池上曾根遺跡に次ぐ面積を有する遺跡である。耕作地が多く残るが、近年は、共同住宅、店舗などの開発が増加している地域である。しかし、顕著な遺構は認められない場合が多い。

当該地は遺跡の中央部からやや西側に位置し、公団くすのき団地の西隣である。耕作地であったが、鉄骨3階建て共同住宅の建設が予定されたため、工事に先立ち調査を実施した。

敷地の北端に幅約1m、長さ8mの規模のトレンチを設定し、重機で60cmまで掘削を行った。基本層序は現地表土、旧耕土、黄灰色粘質土、黄茶色粘質土に至る。黄灰色粘質土の上部で灰白色土の杭痕が認められる。トレンチ南端で3層の下層に黄茶色砂礫また、自然木を含む灰白色土が認められる。遺構、遺物は認められない。写真撮影、図面作成を行い調査を終了した。



- 層位名
- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 現地表土 | 5. 黄茶色砂礫 |
| 2. 旧耕土（灰色土） | 6. 灰白色土 |
| 3. 黄灰色粘質土 | 7. 自然木 |
| 4. 黄茶色粘質土 | 8. 杭痕（灰白色土） |

第32図 9911地点南壁断面図



第33図 9911地点
トレンチ写真

発掘調査抄録 その1

ふりがな	いざみおおつしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいほう								
書名	泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報								
副書名									
卷次	18								
シリーズ名	泉大津市文化財調査報告								
シリーズ番号	32								
編著者名	虎間麻実								
編集機関	泉大津市教育委員会								
所在地	〒595-8686 大阪府泉大津市東雲町9番12号								
発行年月日	西暦 2000年3月24日								
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 .ノク	東経 .ノク	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
いけ がみ もと ね 池上曾根	おおさか み いげみおおつ 大阪府泉大津市 もり うら 森町2丁目 227-15	272060	市町村	遺跡番号	34度 30分 18秒	135度 25分 46秒	19990702	3.6	鉄筋造2階建自治会館建設に伴う事前調査
	ち はら ちよう 千原町2丁目 104-1,-1				34度 30分 05秒	135度 25分 50秒	19991013 ～ 19991015	17.5	鉄筋コンクリート造一部 鉄骨造2階建学習管理施設建設に伴う事前調査
とよ 豊 なか 中	おおさか み いげみおおつ 大阪府泉大津市 あたとよなかちよう 北豊中町3丁目 976-17	272060	市町村	遺跡番号	34度 29分 30秒	135度 25分 30秒	19990223	1.5	木造3階建個人住宅に伴う事前調査
	とよ なか ちよう 豊中町2丁目 268-1				34度 29分 27秒	135度 25分 33秒	19990422	9.0	木造2階建個人住宅に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
池上曾根	集落	弥生	遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった					
		古墳 奈良 平安	遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった					
豊中	集落	縄文	遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった					
		古墳 平安 中世	遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった					

発掘調査抄録 その2

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コ一ド		北緯 。'ク	東経 。'ク	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あな 穴	大阪府泉大津市 豊中町1丁目 664-1, -4, -5	272060		34度 29分 40秒	135度 25分 27秒	19990721	7.5	鉄筋コンクリート2階 建て共同住宅に 伴う事前調査
いた 板	大阪府泉大津市 我孫子109-1, -3, 110-3	272060		34度 29分 12秒	135度 25分 11秒	19990407	200.0	宅地造成に伴う下 水管施設敷設に 伴う事前調査
あな 穴	大阪府泉大津市 我孫子39-1	272060		34度 29分 22秒	135度 25分 14秒	19990927	6.4	鉄筋造3階建個 人住宅に伴う 事前調査

所収遺跡名	種別	主な 時代	主な 遺構	主な 遺物	特記事項
穴師	集落	古墳	遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった	
板原	集落	繩文 古中世	遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった	
穴田	集落	古墳 中世	遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった	

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コ一ド		北緯 。'ク	東経 。'ク	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いの 池	大阪府泉大津市 寿町67-1, -3, -4	272060		34度 29分 56秒	135度 25分 18秒	19990820	(レンチ) 3.75 (レンチ) 4.5	鉄骨造3階建倉 庫に伴う事前調 査
	下条町160-1 他9筆			34度 29分 53秒	135度 24分 27秒		(レンチ) 12.6 (レンチ) 6.0	鉄筋コンクリート造4 階建医療施設に 伴う
	下条町254-9			34度 29分 55秒	135度 24分 58秒	20000128	3.75	鉄骨造3階建個 人住宅に伴う事 前調査
むし 虫取	大阪府泉大津市 虫取1丁目 61-1の一部	272060		34度 29分 32秒	135度 24分 44秒	19991207	8.0	鉄骨3階建共同 住宅に伴う事前 調査

所収遺跡名	種別	主な 時代	主な 遺構	主な 遺物	特記事項
池浦	集落	弥生 古墳	遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった	
			遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった	
			ピット状遺構	遺物は検出されなかった	
虫取	集落	弥生 古墳	遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった	

泉大津市文化財調査報告32

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報18

2000年3月

発行 泉大津市教育委員会

編集 社会教育課

泉大津市東雲町9番12号

印刷 和泉市池上町460番地の33

和泉出版印刷株式会社

